

News

No.143
2020/10/01

逆境に打ち勝つ力



■サレジオ高専News

校長メッセージ
第30回高専プロコン 競技部門特別賞を受賞
デザイン学科がロードレースMAP製作で連携
高専ロボコン2019 関東甲信越地区大会

■育英学院同窓会報

定期総会・SHCD2019集い開催／育英祭2019開催（BLOG報告から）
専攻科18期修了式、本科53期卒業式
第13回育英ファミリーの集い中止
恒例のキャリアデーも対面開催不能
SHCD2019 第52期を迎えての卒業生の集いスナップ
同窓会事務局ブログを見られない方へ挨拶
卒業して…起業して…ITC、IoT企業のトップとして高専卒は何を想う

■父母会だより

2019年度 父母会活動紹介

SALESIO

サレジオ高専

サレジオ工業高等専門学校

194-0215 東京都町田市小山ヶ丘4-6-8

Tel. 042-775-3020 Fax. 042-775-3021

Loving Kindness
Human Technology
Living Truth

発行人…校長:小島 知博
編集長…教員:山館 順
編集…広報:青木 風季



- 逆境の中でも、学びを続ける学生たち -

日頃よりサレジオ高専の教育活動にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。今年度の前期は新型コロナウイルス感染症対策のために、これまで経験しなかった遠隔形態になりました。遠隔授業の準備や試行期間のために前期授業の開始が5月11日になり、対面で実験実習科目の授業を始めた6月22日までは完全に遠隔授業でした。

OECD(経済協力開発機構)が日本のオンライン教育の遅れの理由に子供へのPCの普及状況や個々のネット環境の違いなどをあげていますが、本校も一部の学生がスマートフォンで受講していることがわかり、学校のPCルームの開放や各家庭に遠隔授業の環境を整えてくださるようお願いした結果、中間試験は遠隔で試験を実施することができました。次第に学生たちの声も聞こえるようになり、ほとんどの授業で課題が出されているために、課題を終わらせるのがこれまで以上に大変だということでした。私の担当する授業でも、ほとんどの学生が課題をすべて提出しましたが、学生たちは苦労しながら在宅で学習を積んでいました。遠隔授業で学力差が出るのではないかと懸念の声を本校だけでなく、さまざまな場で聞きます。勉強をやるかやらないかを学生本人が決める環境にあるために、学生の主体性や自主性が個人差に影響していると思われます。その意味では在宅期間は自学自習の習慣をしっかりと身に付ける良い機会であると言えます。

後期は通常の授業形態で行います。遠隔授業をする際、いろいろとアドバイスを下さった方々にはあらためて感謝いたします。今後の教育活動に関してはこまめに情報を発信してまいります。ホームページでご確認いただければ幸いです。

サレジオ工業高等専門学校
 学校長 小島 知博





全国高等専門学校プログラミングコンテスト第30回大会で 本校のチームが競技部門で特別賞を受賞

2019年10月、宮崎県にて開催された全国高等専門学校プログラミングコンテスト第30回都城大会に、予選を突破した本校の学生チームが出場しました。

本大会では自由部門と競技部門に出場し、競技部門にて特別賞を受賞しました。
競技部門の競技名は、「踊って舞って回って」。マス目に区切られたフィールドを如何に多く占有できるかを競います。

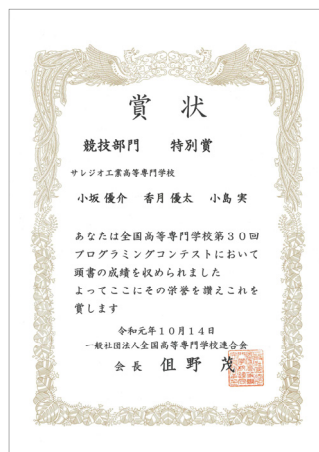
今回特別賞を受賞したことにより、2020年3月19～20日にベトナムで開催されるNAPROCK 第11回国際プログラミングコンテストに招待されることが決定していましたが、新型コロナウイルスの影響で残念ながらコンテストは中止となりました。



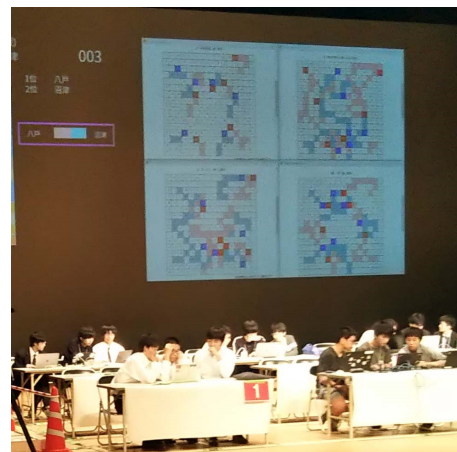
☆ 表彰楯



☆ 自由部門の様子



☆ 賞状



☆ 競技部門の様子



デザイン学科と町田市が「READY STEADY TOKYO - 自転車競技 (ロード)」のMAP製作で連携しました - 2019.07.21

町田市観光コンベンション協会と本校デザイン学科の学生が連携して、東京2020テストイベントである「READY STEADY TOKYO - 自転車競技(ロード)」において、コースの一部となった多摩境駅近隣を紹介するMAPを製作しました。

MAPのデザインは4年生の授業の中で行われました。多くの学生が町田市観光コンベンション協会と意見交換しながらデザインし、選考を経て選ばれたものが印刷されました。



☆ 実際に配布されたMAPです





完成したMAPは事前に様々な場所で7,000部配布され、レース当日も多摩境駅近辺で1,000部が配布されました。

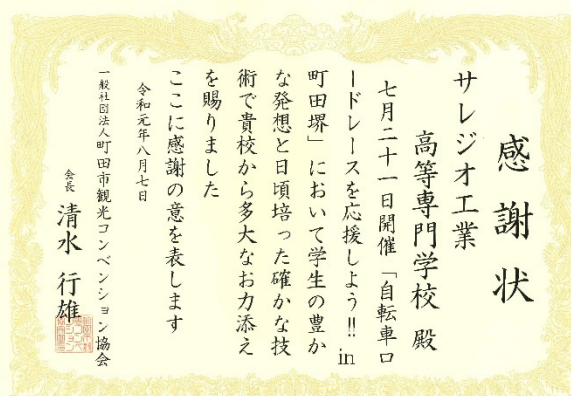
当日配布の1000部は、配布を開始するとあっという間になくなり、沿道では多くの人がMAPを片手にロードレースを観戦していました。

本来は2020年にもMAPを製作し配布する予定でした。オリンピックは延期となってしまいましたが、MAPの製作は今後も地域と連携して、授業の中で行われていく予定です。

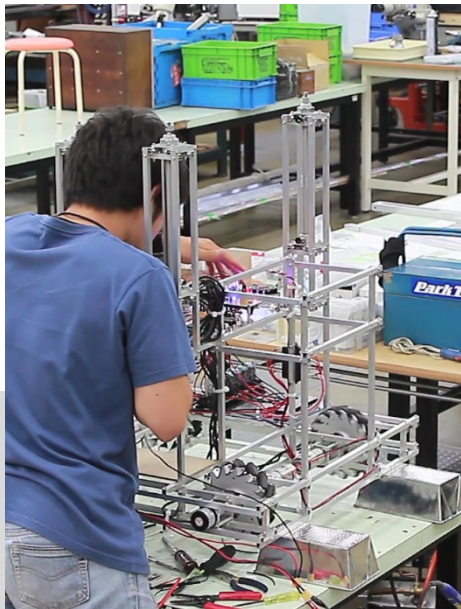
○製作者メッセージ:

MAPやパンフレットを作成するのは、今回が初めてでした。その為、私にとってとても貴重な体験になりました。最初は、自分のデザインが沢山の人の手に渡る事がとても不安でした。まだ勉強不足なところも沢山あり、修正が何度もあったり、先生からのご指摘をもらったりして、やっと完成しました。

データを入稿した後やイベント開催中は、パンフレットに間違いはないか、見にくい所はないかなど、様々な不安が頭をよぎっていました。しかし、実際に人の手に渡ったところを見ると、完成した実感が湧き、達成感に満たされました。今まで学校の課題ばかりをしていた為、学生の頃に外部とのやり取りをして、物を作り上げる経験ができて良かったなと思いました。



☆ 町田観光コンベンション協会さまより感謝状を頂きました！

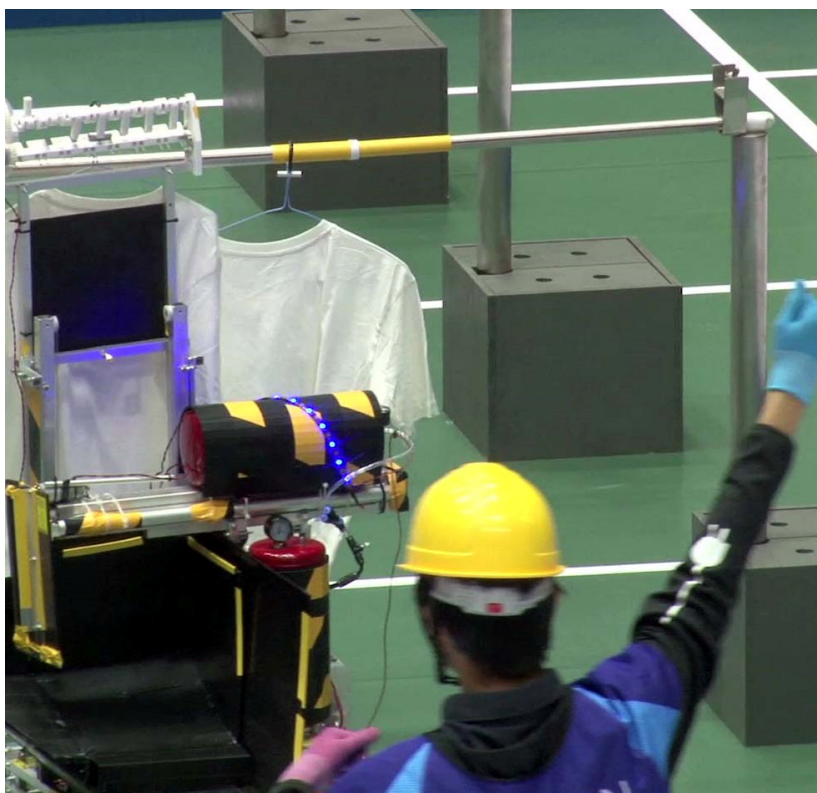


高専ロボコン2019

関東甲信越地区大会

2019年10月6日(日)、町田市総合体育館にて「高専ロボコン2019 関東甲信越地区大会」が開催されました。本大会はサレジオ高専が運営担当校として、大会の運営に携わっていました。

競技テーマは「らん♪RUN Laundry(らん・ラン・ランドリー)」。ロボットがいかに洗濯物を綺麗に干せるかを競います。この難題に対して、学生達は様々なアイデア出しや試行錯誤をして挑みました。

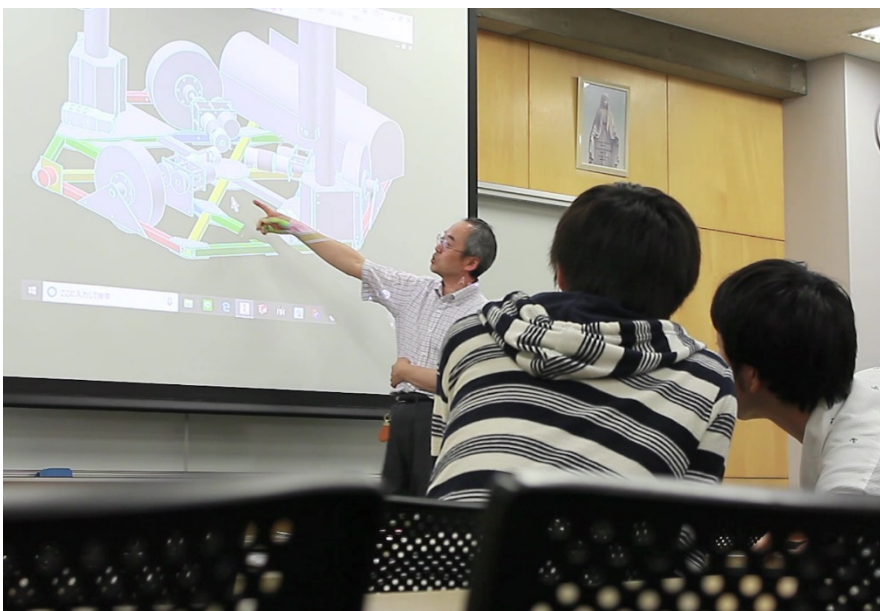
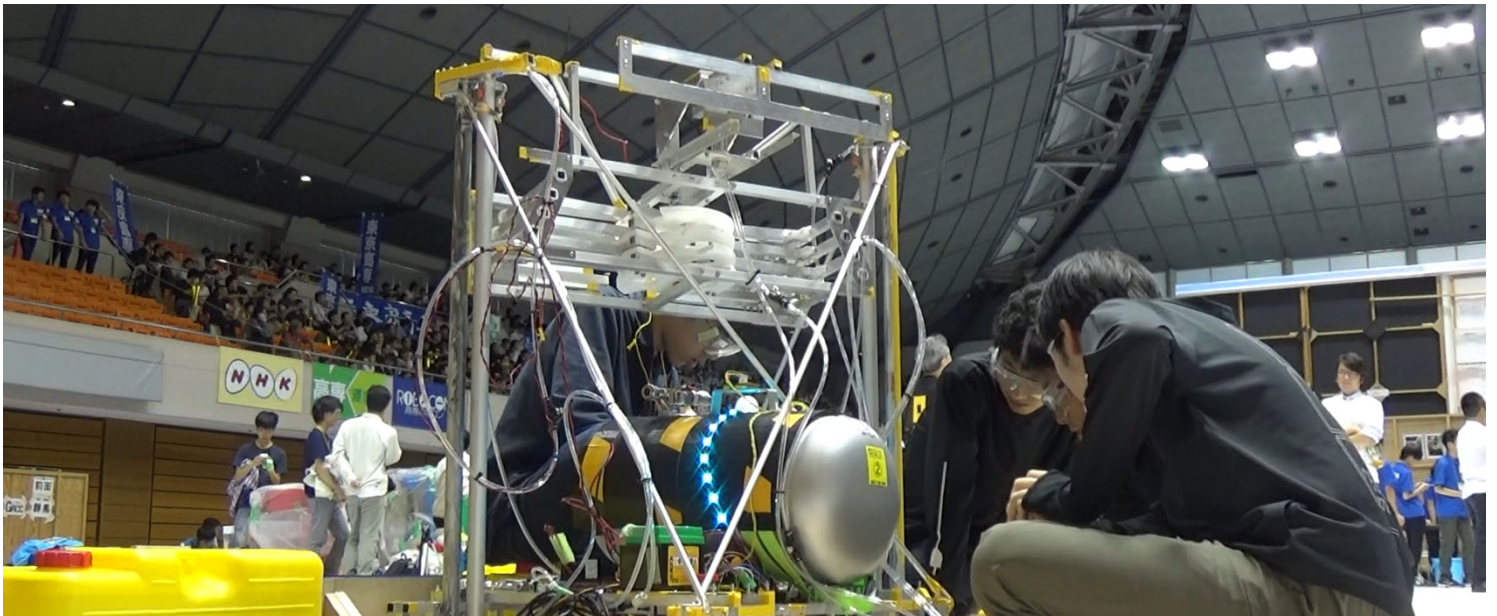


競技ではTシャツとシーツ、バスタオルの3種類を、自動機と手動機の2台のロボットを駆使して物干し竿に干さなければなりません。

テーマが発表された春からアイデア出しがスタートし、学生達は何度も集まって意見を出し合っていました。設計した図面を基に組み立てを行い、徐々にロボットが形作られていく頃には本番まであとわずか。ぎりぎりまで調整とリハーサルを行い、大会に臨みました。

結果は、Bチームが決勝トーナメントの第5位に入賞。惜しくも全国大会への切符は逃がしましたが、Aチーム、Bチームのどちらも素晴らしい戦いを見せてくれました。

学生たちの奮闘を、教職員一同誇りに思います。



2020年度の高専ロボコンは、新型コロナウイルスの影響によりオンラインで開催されることが決定しています。

今後とも本校のプロジェクト活動にご声援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

本校Webサイトでは、プロジェクト活動のMovieを公開しています
是非ご覧ください ↓



高専ロボコン

育英学院同窓会報

発行人:育英学院同窓会 / 事務局:東京都町田市小山ヶ丘4-6-8 サレジオ工業高等専門学校内



特集エアー座談会(起業して)

高専ニュース142号同窓会報紙上9ページの高専14期デザイン卒佐藤敏明さんの記事表題のうち卒業して42年は編集担当の計算の誤りで正しくは38年でした。お詫びして訂正します。

定期総会・SHCD2019集い開催 育英祭2019開催 (BLOG報告から) サレジオ高専 2019/11/23

去る2019年11月23日(土)サレジオ高専の育英祭に際して同窓会恒例のSHCD2019が開催された。今年は隔年の定期総会の年にあたり集いの前に総会が行われ、定足数の確認後、以下の議題について報告、審議の上承認された。

- 第1号議案 同窓会の現況報告
(会員数14557、内本科新卒52期156名)
- 第2号議案 2018-2019事業報告
- 第3号議案 2017-2018年度決算報告
上記監査報告
- 第4号議案 2019-2020事業計画
- 第5号議案 2019-2020年度予算案
- 第6号議案 新規事業(基金・人材)

つづいて16:30からSHCD2019ホームカミングの集いが始まった

1. 開宴の挨拶 河村会長
2. 歓迎の挨拶 小島校長
3. 卒業生挨拶 松崎裕泰(高専15期)
4. 新卒生挨拶 桐山大輝(高専52期)
5. 乾杯音頭 加藤多津生(恩師)
6. BINGO 近松・木戸・建部
7. 中締め 高橋高専事務長(同窓会事務局長)

当日は一日中雨模様で出席の少なさに危ぶまれたが新卒生の多数の参加もありにぎやかに交流の機会を持てた。出席者の内訳は(回収された名札から・・・名札未回収、名札なしを含まない)

1. 高専現元職 7名
2. 中学工高 4名
3. 高専1~51期 10名
4. 新卒52期 27名

記録上合計48名であったが会場には70名程度はいた。来年の育英祭は2020/10/24-25であるが無観客非公開となった。よってSHCD2020も中止、2021に53+54期で開催を計る。

理事会・評議員会・定期総会資料	
■	理事会・評議員会・定期総会資料一覧
■	2019.11.02 理事会・評議員会・総会(報告)
■	2019.05.25 理事会・評議員会(報告)

総会資料他は同窓会ホームページ上、上記の2019.11.2の報告に掲載されているのでご覧いただければ幸いです。ただしID,PW入力要、事務局までメールいただければお伝えします。

専攻科18期修了式、本科53期卒業式 サレジオンホールで 2020/3/16

すでに学校は休校状態で、従来の杜のホール(使用ができなくなった)から校内サレジオンホールでの開催に、出席者も学生・教職員に限定されて行われた。さらに父母会主催の謝恩会も中止となった。

その意味で同窓会主催のSHCD2020は是非開催したいところであるが、去る7月の理事会で中止を決定した。

第13回育英ファミリーの集い中止 杉並サイテック 2020/3/28

案内を発送し80名余のご出席を戴いたが、年明け3月には新型コロナウイルスの影響が強まり高齢者も多いのでやむなく今回は中止と決定した。来春のリベンジについても難しい状況で年末前後の幹事会で開催の可否を検討することとしている。

恒例のキャリアデーも対面開催不能 サレジオ高専 2020/12

例年5月末に開催されていたOBOG講師を招いたキャリアデーは休校中でもあり対面開催は困難でWeb(Remote)環境での開催に切り替えて行われる模様である。

SHCD2019 第52期を迎えての卒業生の集いスナップ 2019/11/23
SHCD2020は開催中止53期+54期合同でSHCD2021開催予定



学生食堂での受付風景



Café Timorのお店



司会進行の近松副会長



歓迎挨拶する校長



育英時代卒の松崎さん



新卒代表の桐山さん



新卒52期生の皆さん



新卒代表の桐山さん



再会を喜ぶ新卒生



乾杯音頭は恩師の加藤先生



歓談する岸副会長



こちらも先輩たち



女子卒生も元気で



中締めの高橋事務長



ちょっと古い卒業生たち

同窓会事務局ブログ (<http://igdk.sblo.jp/>) を見られない方へ抜粋

2020年04月02日

2020/4/2 野原節雄さん (S01E)が論文賞受賞

かねてから同窓会報でも紹介していた専攻1期電気工学科卒の野原節雄さんが日本水産学会論文賞を受賞されました。野原さんは十数年前から「妙高雪エビ」という内陸型の海産物養殖に取り組んでおります。以下のサイトを参照してください。 <http://yukiebi.sakura.ne.jp/shoukai.htm> 海外（モンゴル）にも進出しています。

その先駆的試みを産業化したことでこのたび日本水産学会論文賞を受賞されましたので紹介します。

論文要旨

日本における事例を対象とした体系的な飼育環境エビ養殖の生物経済学的分析及び経営改善プランの提言。

進士洋平、野原節雄、八木洋行、マーシー・フォルダー
世界的に大産業となったエビ養殖では、環境負荷の低減と生産性の改善のため、従来の体系的な飼育環境とよばれる手法が開発され、注目を集めている。本研究では、生物経済学的アプローチによって、実際の養殖現場において生産性を決定するメカニズムを推定し、経営改善プランを提言した。まず、共分散構造分析によって、養殖水体内の物理環境とエビの成長率および死亡率の関係を分析した。次に、これに基づき、個体群動態モデルを作成し、最後にシミュレーションを行うことによって、調査対象地における最適な生産計画を推定した。

論文員



0 B!ブックマーク

0 いいね!

ツイート

ブックマーク

posted by いくえいぶろぐ at 11:24 | Comment(0) | 日記

育英高専初期の倫理・世界史担当であった東木忠彦神父逝く

From: サレジオ会管区広報

Date: 2020年1月29日(水) 10:30

Subject: 訃報 フランシスコ・ザビエル東木忠彦神父 帰天

To: サレジオ会管区広報

サレジオ会員・サレジオ家族代表の皆様

長年、入院療養中でありました、サレジオ会員フランシスコ・ザビエル東木忠彦（ひがしき・ただひこ）神父が、2020年1月28日 午後20時22分、神様のもとに召されました。享年80歳でした。

遺族ならびに葬儀ミサ・告別式は、下記の日程にて執り行われます。（執り行われました）

【遺族】

日時：2020年1月29日（水）18時から 場所：カトリック別府教会

（〒874-0938 大分県別府市末広町1-14 電話0977-22-1772）

【葬儀ミサ・告別式】 日時：2020年1月30日（木）12時から 場所：同上

サレジオ会員として、人びと・若者たちと共にいて牧者としての使命に生涯をささげられた東木神父に感謝を込め、永遠の安息を祈りつつ、謹んでお知らせいたします。師の略歴は以下の通り

◆サレジオ修道会司祭 フランシスコ・ザビエル 東木忠彦 sdb

1939年7月6日 石川県加賀市にて出生

1959年3月29日 初誓願

1965年3月25日 終生誓願

1969年9月13日 司祭叙階

1970年～75年 育英学院

1975年～85年 日向学院

1985年～88年 サレジオ学院

1988年～90年 東京サレジオ学園

1990年～2008年 大分県・東京・他

2008年～ 別府市サレジオハウスにて静養

2020年1月28日 帰天（80歳）

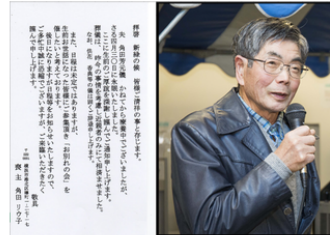


東木忠彦神父晩年の遺影

2020年05月18日

2020/5/18 角田芳元先生訃報・・・続いて 東木忠彦神父 小野貞雄先生

去る2020年4月30日かねてから療養中であった角田芳元先生（育英高専時代に一般教育化学、グラフィック工学科で専門科目を担当）が逝去されました。先生のお姿を偲びつつご冥福を祈ります。後日「お別れの会」をお考えのようです。ご挨拶を以下に掲載します。



別ブログで東木忠彦神父（別報）、続いて小野貞雄（情報）先生の訃報が入りました。小野先生は電気工学科情報コースの設置された頃から情報工学科の初期（1990年代）に教鞭を執られた先生です。温厚で優しい先生は学生に慕われました。企業出身で通信工学、電気基礎を担当していました。ご冥福をお祈りいたします。ご遺族からご挨拶がありましたので掲載いたします。



2020年02月18日

OB ACTION [田中孝佳さん(S07E)]

高専電気工学科7期卒の田中孝佳さんから彼のバンド活動について報告がありました。おじさんバンドですが渋谷のロックバー「ガビガビ」、自由が丘のバー「クラプト」などに出演しています。バンドの名前はボーカルメンバーで変わりますが・・・後の画像はRumika Bandで蒲田の音楽バー「Catfish」のものです。



0 B!ブックマーク

0 いいね!

ツイート

ブックマーク

posted by いくえいぶろぐ at 21:18 | Comment(0) | Hokoku

卒業して...起業して... ITC、IoT企業のトップとして高専卒は何を想う

育英高専11期電気工学科電気工学コース卒 現在株式会社 ABIT 代表取締役 檜山竹生
卒業して43年、起業してLocal 5G開発でトップを走る！

育英高専26期電気工学科情報工学コース卒 現在株式会社 Blueship 代表取締役 慶松大海
卒業して28年、起業して沖縄でIoT展開を目指す！

工アー座談会進行 育英学院同窓会事務局次長 木戸能史 (元電気工学科・元情報工学科教員)

木戸：私が高専プロコンに関わって30年になりますが国立高専の皆さんともお付き合いする中で、高専卒で起業され、会社の代表として活躍される方が非常に多いことに気がつかれます。特にITC業界は顕著で、「さくらインターネット」や「jig.jp」、他にも多数あります。本校にも起業された方を複数存じていますが、今回はFBつながりということもあり多忙なお二方に加わって頂き工アーの座談会という形をとりました。本当は学校に招聘して学生を前にシンポジウムを考えていたのですが新型コロナのおかげでこのようなことになりました。

お話の内容として

1. 高専時代の在学から就職へ
2. 起業への道のり
3. 会社のトップとして
4. ICT社会での高専生は...

という流れで進めたいと思います。

1. 高専在学時代から就職へ

はじめに先輩に敬意を表して檜山さんからお願いします。

檜山：ありがとうございます。高専11期卒業の檜山です。冒頭のご紹介にありましたとおり、卒業から43年が経ちました。木戸先生や当時の同窓生とFBやメールで会話をしますと、その頃の思い出が鮮明に思い出されます。



育英に進学したのは、小学校時代からアマチュア無線に没頭するなど工学系に進みたいということと実家の沿線にあり通学が楽であったことですね。また、5年間で社会に出られるというメリットを感じていたと記憶しています。在学時は、とにかく先生方に迷惑をかけたかな・それを寛容な眼差しで見逃してくれた（感謝です）ことに感謝しています。当時の同期は、結構、破天荒な連中が多く、先生方も苦勞をされたと思います。電気工学科の電子工学で学びましたが、当時、興味を持っていたデジタル技術やソフトウェアに関しては木戸先生に質問ばかりで意地の悪い学生に映ったかもしれません。ちょっと当時でも時代遅れ感があったFACOM・MATEでのプログラミングカードをぶち撒けたり、破茶滅茶な無線部での先輩方との共同生活など、とても楽しい学生生活でした。今となっては、嫌々やっていた基本工学の学習は本当に必要だということが分かります。5年間の学生生活は長いようで、本当に短かったですね。それは、先生方にご心配をおかけした学生起業を3年生で始めたことにも重なります。マイコンが世の中に出始めた時期で、マイコン関連の設計、ソフトウェアの開発を請け負う個人事務所を設立しました。その破茶滅茶話は、別の機会といたしますが、卒業までの2年半ほどは学校が設計事務所になってしまい、業者さんの納品などが学校事務宛に届くなど迷惑の連発でした。

右上へ続く

左下の続き

結果、就職は形だけとなり個人事務所から付き合いのあったパソコンベンチャーに自分を人材派遣する形で就職・卒業となりました。

木戸：ありがとうございます。在学時代の無線部のことなど私との関わりも多かったですね。そういえば最近アマチュア無線を再開されたとか、私も故あって3年前から再開しデジタル系などバリバリです（笑い）では後輩に当たる慶松さんどうぞ

慶松：ご紹介にあずかりました、電気工学科情報工学コース卒業の慶松です。私が育英に進学する時代は、まだ情報工学、コンピューターという世界は身近でなく、そのような学科があることさえも想像していませんでした。



私は当時進路を考えていた際に、情報分野は将来性があると言ってくれた父の勧めで育英に新設される情報工学のコースに進学を決めました。無事入学してすぐは部活に打ち込んでおり、勉学はおろそかにしていた方だと思います。3年になる前で部活を辞めその時間を勉学に傾けたことで、成績も向上し同時に、専門科目に興味湧き授業にも積極的になったことを覚えています。

当時はバブル時代でしたので、青田刈り（インターンなどで企業に囲い込むこと）全盛でした。学科でも富士通ネットワークFNEから講師を受け入れていましたが、個人的には第一線の企業で仕事をしている現場の話や早い段階で聞けてとても有意義だったと思っています。その中でも開発部の部長で来られた龍先生の講義は興味深く、その後富士通研究所に移動された後も、家や職場にまで押しつけて指導していただきました。卒業研究は木戸先生に我儘を言って龍先生の研究室に関連した課題を卒業研究にさせていただいたことを覚えています。

木戸：そうですね。情報系の学科を創設したいという私の構想から学科創設の2年前電気の情報工学コースとして発足した最初の学生です。学生も初めてなら教える教員もカリキュラムも初めてで五里霧中、試行錯誤の毎日でした。富士通の汎用機M760-4とPCはFMR50が60台で1億近いものでした。非常勤の先生を集めること、就職先を開拓するのも大変でした。その中で龍先生とのご縁でFNEに就職されたんですね。

2. 起業への道のり

木戸：では就職後の会社でのご経験を伺います。ここでは順序を逆にして慶松さんからどうぞ

慶松：入社後すぐに龍先生の研究所へ見習いとして派遣され1年半程勤務させていただきました。研究所は設備が素晴らしく、ずっとプログラミングしていた記憶があります。

次ページへ続く

前ページの続き

その後研究室も私の興味の分野から変わったこともあってFNEに戻り、役員と2名のみの企画部で様々な仕事を体験させていただきました。当時はインターネットが広がり始めた頃で、私は社内のIT化推進を一通り任せられ、自由に仕事をさせてもらえました。また、総務部や人事、会計のシステムなどの導入をする中で会社の仕組みも覚えていきました。

木戸：それはいい経験になりましたね・・・

慶松：私は高専で身につけた技術や考えを早く試してみたいと思っていたので、就職して実践の場で使えることが楽しくもあり厳しいものだと学びました。特に社会人となって学校と違うところは、答えが用意されていないこと、様々な手を使ってでもゴールすることが必要だということです。就職して感じたのは、本気の職場の3ヶ月の経験は学校の1~2年分の知識になると感じたことがあります。学びと実践を繰り返すというのは、能力を向上するのにとても大切だということをここで学びました。その為に学校で学んだことを駆使することはもとより、社会人になっても更に伸ばしていくことが必要だと思っています。

私はその後一旦、ITを離れフィールドワークをやったことで、自分がITの仕事に向いていることがよくわかりました。元々、自由に仕事をさせてもらっていたこともあり、自由に発想し、新しいことに挑戦できて成長できるところを探しているうちに起業に至ったような感じです。



都内のタワービルのワンフロアー

木戸：そうでしたか・・・。やはり人に使われるより、人を動かしてみたいという思いですね。そういえば龍先生も富士通総研を出て、確か人工知能系の会社を創られましたね。その後ご病気で他界されたのは本当に残念でしたが、さて檜山さんは入社した会社で出世して経営を任されるようになったんですって？

檜山：先生には内緒でしたが、1977年にズル休みをして渡米しました。第一回ウエストコーストコンピューターフェアWCCに行き、自分の作ったパソコンもどきを飛び入り発表するという計画で、この時に後の有名人になるアップルのジョブズ、ウォズニアックやマイクロソフトのビル・ゲイツなどと親交を深めました。当時は、こちらも生意気だったのでコッチの方がイケてるぜ！と威勢をはりもっと仲良くしていればよかったかな・・・今となれば失敗だったかな・・・と思っています。その後、先に述べた通り、パソコン開発の会社に自分を派遣し、世界市場向けの数々のパソコンを開発、製造して単身で顧客打ち合わせから問題炎上の火消しまで、ほぼ飛行機に乗りっぱなしという5年間を経過し、かねてより温めていた通信技術を活かす「通信の自由化」というイベントで、個人会社を株式会社にして今に繋がります。早くから、移動体通信技術に興味を移していたこともあり、特に日本が出遅れていたデジタル無線通信の分野で頭角を表すことができ、第一世代から現在の5Gまで、ユニークな技術や製品を提供することを生業としています。趣味が仕事になってしまい、逃げ場がなくなってしまったので覚悟して、好きなことをやる。夢を実現するという心情で頑張っています。

木戸：本当にご苦労されたんですね。でも自分がやりたいことをやる、それがモチベーションになったんでしょうね。

右上へ続く

左下の続き

起業の魅力と困難を超える力などこの記事を読む後輩たちに参考になると思います。後輩に送るエール

“起業は困難な道のり・・・でもそれ以上の魅力あり”

3. 会社のトップとして

木戸：結果として企業のトップになるということは、従業員の生活を保障しつつ常に業績を向上させなければならないと思いますが如何ですか。檜山社長（職名）からどうぞ

檜山：若い時は命さえ失わなければリスタートは何度でも効くと思いつつ17歳の時に起業の真似事をしたわけです。今でこそ学生起業は珍しくありませんが、当時の社会では学生起業などありえないと言われ、制度的にも印鑑



ABIT 自社ビル

証明は取れないし、銀行口座すら開設できませんでしたから手続きとして無理で、屋号は掲げるも結果的にいつも二コニコ現金払いでお願いしていました。取引先がとても寛容で良く付き合ってくれたと思います。誰もやっていないことをやってワクワクドキドキするのが、今でも会社のテーゼとなっていますので、挑戦や失敗の連続であります。それに共感をもった優秀な人たちが国境を超えて参加して今の会社の規模になっています。継続は力なりと、創業から45年を迎えました。やはり気になるのは後継者の育成問題です。私は承継したい人が現れればスッと譲り、居ないのであれば客先に迷惑がかからない様に上手に撤収するというのが基本的考え方です。経営は、色々なイベントに遭遇しますから、その時に経営トップとしてはそれが間違いだったとしても「即座に判断を下す」ダメだったら方針変更を即座にする。また、それができる人しか経営のリーダーシップは握れないと信じています。やはり、経営者（特に創業者）と従業員の間には、どんなに仲が良くても10万年光年くらいの考え方の差があると思います。それを埋めることは非常に稀ですから、そもそも考えては行けないと思っています。従業員は就労の自由を持ち、経営者は最後まで責任を全うする義務を負っています。

木戸：厳しいものですね・・・

檜山：責任の全うという観点から、技術的には古くなってしまいましたが、PHS方式という携帯電話技術があります。（病院やオフィスで使われています）我が社は、1991年の方式規格の策定に関与し現在は、大手企業が撤退するなか弊社だけが半導体を供給しています。やはり、言い出しっぱが最後までしっかりサポートすることで社会責任を果たすという考えです。自分たちの作った技術が世界の標準となり、1億人が使ってくれ一世風靡したのですが、3G、4Gに押されて現在は国内で500万台が利用されています。修理や補充のために主要部品である半導体は必要で、細々とビジネス度返して供給を続けています。これらの、技術を総まとめたいと現在、開発を進めているLocal5G技術は、我が社がトップを走っていて業界をリードしています。

木戸：PHSの生涯に関わったわけですね。しかもローカル5Gの分野では業界トップになったんですね。Only one の意気込みですね。慶松社長（職名）は如何ですか

次ページへ続く

前ページの続き

慶松：基本的に私は従業員も経営者も境界がないように思っています。私はいまだにコーディングもするし、社内システムのメンテナンスなんかもやっています。私が従業員と経営者の視点の違いとして良く考えることとして、法人という擬人化された人（会社）と仲良く一緒に仕事ができるか、一生懸命になれるかどうかだと思います。法人を通じてお客様を見ている人は、平社員であっても経営する資質を持つ人だと思っています。また経営者としてやってきて、私は一緒に働く人とのつながりはとても大事だと思います。成功や失敗を共有できる人がいてくれることと、誰と成功するのが自分にとって楽しいかということは仕事をする意味の一つでもあると思っています。

木戸：業態あるいは世代によって見方が違うのでしょうか

慶松：コロナ下になって、デジタルトランスフォーメーション（DX）が急加速しています。IT業界はもう専門の領域ではなくなりつつあり、一般的なITの知識の他に、各自で深い専門の分野をつくっていくことが、個人も企業も生き残る為に必要です。私は5年前より会社の事業分野を拡張する為に、金融や官公庁向けの業界から製造業に展開する方向で事業を探しました。ご縁もあり現在は沖縄の泡盛を取り扱っていますが、酒造業界も今後DX化が進みます。Eコマースサイトや、貿易のシステムなども駆使しています。そのような中で現在私達の得意分野を応用したIoTのサービスなどを模索しています。

木戸：琉球泡盛のIoTですか・・・なんか趣味と実益を兼ねた事業展開ですね。リモートなら現地に行かなくてもいいはずですがFBではいつも現地にいますね（笑）

檜山社長には古くから本校の卒業生や八王子の高専卒がお世話になっています。慶松社長にも高専プロコンを通してご縁ができているようですね。最後に企業に就職しても将来起業したいという学生にエールとともに助言をお願いします。慶松さん（先輩として）からどうぞ

4. ICT社会での高専生は...

慶松：いまは残念ながらIoTまでたどり着いておらず、実際にお酒のマーケティング活動をしているので、現地に行っています。いままで新しい経験をしていて、この歳になってプチ転職した気分です。新しい仕事をやる上で再認識したことは、現場、現実、現物という、コロナ下では難しいことが大切だと感じています。いまの状況は働き方などを変えてしまっていますが、実は大切なことは変わらないのではないかと考えています。「現場に足を運び、実際に見て、手を動かす」この点をちゃんと使い分けられる人が成長していけるのでは無いかと思っています。（編集注：ここが高専卒の特徴！）就職して会社で働くということは、その文化を受け入れて、今までにない自分を発見したりスキルをつけたりすることだと思っています。また、起業するということは自分から常に変革して、新しい自分や環境が変わっていくよう努力することだと思います。起業は自由ですが、自由な分だけ自分との折り合いの付け方が大切だと思います。誰も叱ってくれませんから。

木戸：ありがとうございました。さらに檜山社長のところにもいろいろな関わりから高専生がお世話になっていますが、彼らの働きぶりも含めてどうぞ

右上に続く

左下の続き

檜山：我が社には、全国各地からの高専卒業生が集っています。社風は、高卒者も博士課程修了者でも新卒は、給与も同じです。18歳で入社した場合は博士課程を経て26歳で入社した人に対して8年の実務経験があります。年下の上司というのは珍しくありません。育英の学生に限ったことではありませんが、高専卒業生はいわゆる「遅咲き」の人が多く見受けられます。アルバイト経験や遊びが少ないせいでしょうか、非常におとなしいか世間知らず感が強いと感じます。反面、一度ハマると寝食を忘れて仕事に没頭する性質が強いという基礎的素養がありますから、卒業直後に実戦投入が可能で、黙々と取り組む姿勢は特徴的だと思います。

木戸：それはよく言われるところです。私はよく例えるのですが高専卒生には「合コン」の相手がいない！って（笑い）

檜山：性格的に大人しいタイプが多いので、コミュニケーション能力については今ひとつですが、コツをつかめば上達は早く、レポート能力は実験レポートの効果だと思われませんが、良質です。全国の高専から何人か働いていますが、それぞれに特色が有ってとても興味深いです。先日、香川高専の学生がAI技術で起業したというニュースが報じられました。今時、決して珍しいことでは無いと思いますが頑張って欲しいと思います。（編集注：昨年の高専プロコン都城大会では都城出身の起業学生二人の講演がありました）現在では、手続き上の起業は非常に簡単で、誰しものが会社を起こすことができます。しかし重要なのは、「何のために」、「なぜ起業するのか」と、目的をはっきりすべきであり、起業ありきでは周りを巻き込んでの行動が故に社会の迷惑になってしまうことがあります。場合によっては起業より企業の中で挑戦できれば爆発的な威力を発揮するかもしれないわけです。若手の起業家を支援することが多くなっていますが、安易に資金調達ができる環境であるため資金集めのトークは非常に上手ですが、利益を産んだりユニークな技術を創造するチームにあまり会えないのが現状です。詐欺的にトークの上手な人は本当に多い！是非、育英の学生も良い先生がたくさんいらっしゃるのアドバイスを受けながら実現性のある創業をして欲しいと思います。

木戸：たぶん相談しないと思います（笑い）

木戸：エア座談会にご協力頂きありがとうございました。本当なら八王子の檜山さんが常連のお店で慶松さんの泡盛をかかえつつ語りかけたですね。コロナ以後に楽しみを取っておきましょう。

この記事を読まれた卒業生の皆さんで私もこんな話が・・・という方は事務局（木戸）までどうぞ。また在校生の皆さんへ、皆さんの先輩はこんなに活躍されています。在校時代の成績とかではなく「何かやってみたい、チャレンジしたい」というお二人の姿勢が私の記憶に残っています...





高専News編集部では
皆様からの情報やご要望をお待ちしております。

ご自身の近況・ご学友の近況などの情報のご提供や、より詳しく知りたい本校の活動内容などがございましたら
お気軽に下記担当者までお問い合わせください。

企画広報課
星野 正登

【 hoshino@salesio-sp.ac.jp 】 or 【 070-2196-5135 】

なお、本校に来校をご予定の方は、公共交通機関をご利用の上、
お気をつけてお越しください。

